

# 指導者用デジタル教科書(教材)を活用した授業実践 —地理学習における効果的な「主体的・対話的な学び」—

沖縄県 豊見城市立豊見城中学校 大城 判

## 1 はじめに

新学習指導要領(平成29年告示)における改訂の基本方針のひとつに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進が示された。これは、既存の授業実践を否定して新たな指導方法を取り入れることに主眼を置くものではなく、これまで取り組んできた実践の中に「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点を取り入れることで授業改善を推進するものである。

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』(以下、解説)の地理的分野の目標、内容及び内容の取扱いにおいても、地理的分野の学習で「主体的・対話的で深い学び」を実現するための「社会的事象の地理的な見方・考え方に根ざした追究の視点」が示されている。

今回は、生徒が「主体的・対話的な学び」の中で「地理的な見方や考え方」を働かせて課題を追究する授業を展開する際、『帝国書院 指導者用デジタル教科書 社会科 中学生の地理』(以下、デジタル教科書・地理)を効果的に活用し、学びの活性化を促す授業実践を紹介する。

デジタル教科書や教材にはたくさんの機能があるが、すべての機能を使う授業を展開すれば生徒にとって「詰め込み」すぎの内容となり、本来の有用性を失うと考える。生徒の考える時間を十分に確保し、「深い学び」につながる補助的な教材としてデジタル教科書・地理を活用していく。

## 2 授業展開例

単元：第1部・第3章 1節 アジア州  
2 地域によって異なるアジアの農業や文化

### (1) 本時のねらい

解説では、平成20年版を踏襲した「地理的な

見方や考え方」をふまえ、地理的分野の学習において、「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、「社会的事象の地理的な見方・考え方に根ざした追究の視点とそれを生かして解決すべき課題(問い)を設定する」ことが不可欠であるとする。

本時のねらいは、アジアにおいて、なぜ地域によって異なる農業や文化が発達したのかの追究である。その際、「地理的な見方や考え方」を働かせて、農業分布における地域的特色と文化(宗教)の広がりを教科書の資料などを用いて多面的・多角的に考察できるようにすることである。

### (2) 導入 [10分]

毎時の授業の導入で実践していることが、「はじめます」の授業開始の合図と同時にスタートする『10問テスト』である。この取り組みにはいくつかの理由がある。

理由の一つ目は、前時の復習である。公民的分野や歴史的分野でも同様であるが、前時に学習した既得知識を基盤として本時の内容を理解することが重要だからである。

二つ目が、本校で実践している「授業開始前の3分前着席」の奨励である。

テストはデジタル教科書・地理のタイマー機能を使い、3分のカウントダウンで行う。隣の席同士でテスト用紙を交換して解答する際、前時の学習内容であるデジタル教科書・地理p.36～37「1 アジア州の自然環境」を提示し、教師がペンツールで解答箇所をマークしていく(図1)。この作業には、重要語句や地図、表やグラフを視覚的に確認できる利点がある。

テスト後は本時の内容に入る。まず初めに、デジタル教科書・地理の授業スライド「アジア



図1 デジタル教科書・地理p.36~37 (ペンツールで解答箇所を青い線でマーク)

の稲作と畑作」から「①水田での田植え」「②小麦の収穫」の写真資料(図2)、「③米と小麦の生産」の円グラフ(図3)を見せ、アジアで



図2 授業スライド5/11「アジアの稲作と畑作」

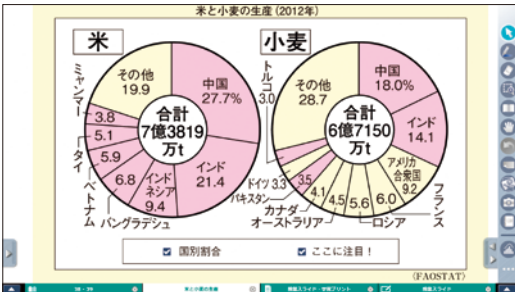


図3 「③米と小麦の生産」

多く栽培されている作物について確認し、本時のねらい(図4)を提示する。

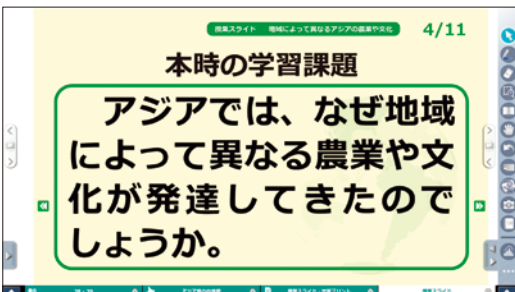


図4 授業スライド4/11「本時の学習課題」

この単位では、農業と文化(宗教)をテーマにアジアの特色について考察させることが課題となっており、導入ではまず、農業について拡大機能を使い、「⑥アジアの農業」分布図のみ

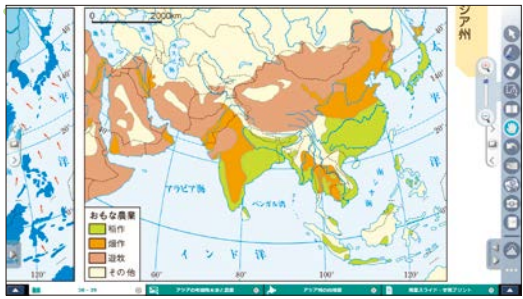


図5 デジタル教科書・地理p.39「⑥アジアの農業」の拡大表示

を提示し(図5)、生徒の思考を揺さぶる発問をする。

**【発問①】**

アジアでは、なぜ地域によって異なる農業が行われているのでしょうか。

**生徒の反応**

- ・それぞれの国で主食が違うから。
- ・気候に合わせた作物を育てているから。
- ・むかしからの食文化が違うから。

デジタル教科書・地理の「⑤アジアの降水量」「⑥アジアの農業」を並列表示し、発問を続ける。

**【発問②】**

では、2つの資料を比べるとどんなことがわかるのでしょうか。

**生徒の反応**

- ・色の分布の特徴が似ている。
- ・降水量と関係がありそうだ。

**(3) 展開1 [15分] 学び合い活動**

農業と気候に何らかの関連性があることを全体で確認し、グループ学習でワークシートを使い、降水量と農作物との関係について確認する。その際、この地理的事象を「地理的な見方や考え方」を働かせて追究させ、説明できるようにさせる。

**<生徒の学習活動>**

- ①グループで本読み
- ②基本語句の確認
- ③稲作、畑作、遊牧が行われている地理的条件の確認

**(4) 展開2 [15分] 全体で確認**

展開1でのグループ学習を踏まえ、アジアにおける農業や文化の地域的特色を地理的事象の面から全体で確認する。

### 【発問①】

農業分布を降水量1000mm, 500mm, 250mmを基準にそれぞれ説明しよう。

### <生徒の学習活動>

- ・電子黒板の前に出てきてもらい、デジタル教科書・地理の降水量をなぞりながら説明させる

デジタル教科書・地理の図版「アジアの年間降水量と農業」を提示し、およそ降水量1000mmの境界線と稲作と畑作の境界線が一致すること、250mm未満の地域では遊牧が見られることを確認し、降水量と農業分布の重なりをペンツールを使って大まかに記入させ、気候と農業の関連性に気づかせる(図6)。

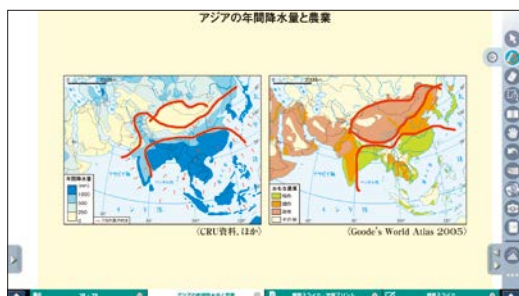


図6 「アジアの年間降水量と農業」(ペンツールで降水量と農業分布の重なりを赤い線で記入)

### 【発問②】

アジアにはどのような宗教がありますか。また、これらの宗教はそれぞれの地域へどのように伝わったのでしょうか。

### <生徒の学習活動>

- ・宗教の分布(色分けと矢印で広がり)を確認

次に、もうひとつのテーマである文化(宗教)について発問する。デジタル教科書・地理p.39「⑦おもな国の宗教別人口の割合」を提示し、アジアには多様な宗教があることを確認する。また、宗教が伝わった経路については、前章で学習したデジタル教科書・地理p.31「⑤世界のさまざまな宗教」を掲示し、アジアにおける宗教分布を世界的視野からとらえ、教科書p.39の本文の記述内容を確認しながら、仏教、イスラム教、キリスト教が交易や布教活動、植民地支配などの人々の交流にともなってアジア各地に広まったことをペンツールを使い矢印を書き込

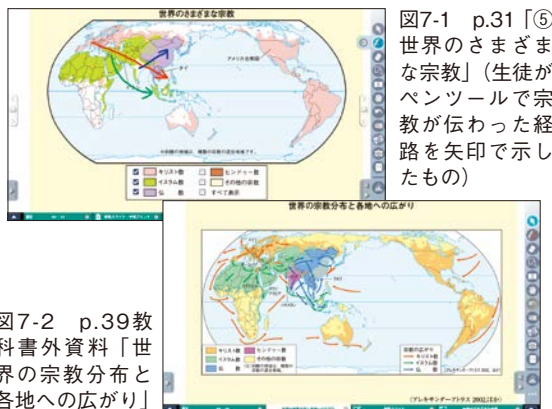


図7-2 p.39教科書外資料「世界の宗教分布と各地への広がり」

ませる。(図7-1)。デジタル教科書・地理p.39教科書外資料(📄のアイコンで表示)「世界の宗教分布と各地への広がり」(図7-2)で答え合わせをすることができる。

### (5) まとめ [10分]

ワークシートで本時の振り返りを行う。

- ・授業の理解度、話し合い活動についての自己評価
- ・本時の学習内容のまとめを「農業・文化・地域」のキーワードを使い、各自でまとめる

## 3 おわりに

グローバル化する現代社会において地域的差異を認識することで、世界には多様な文化や生活、結びつきがあることをとらえることができ、「人類全体で取り組まなければならない課題、例えば、持続可能な開発目標(SDGs)など」(解説p.47)の達成を担う公民としての資質の基礎の育成へとつなげることができると考える。

生徒の学習を補助するデジタル教科書・地理には、前述したように多種多様な機能があり、「授業スライド」の機能を使えば、十数枚の資料を順に提示するだけで授業が展開できるほどである。また、教材作成ツールで資料を作成したり、地域に根差した資料を差し込むなどの効果的な活用法もある。しかし、生徒に身につけさせたい力や気づきを与えたい場面など、活用する資料の精選や提示する順番など教師の創意工夫が欠かせないことも事実である。

本稿が読者の先生方の授業づくりの一助になれば幸いである。